

新 除 草 剤

エムロン粒剤

CMP・DBN除草剤

(取扱会社)

イハラ農薬株式会社

性状・作用特性：本剤はIH-613の試験名で試験されてきた除草剤で、その主成分は、2・4・6・トリクロルフエニル・4・ニトロフエニルエーテル(CNP)6%と、2・6・ジクロロベンゾニトリル(DBN)1.3%との混合粒剤である。

CNPの作用はよく知られている通り接触作用の強い非ホルモン型移行型の低魚毒性の土壤処理剤で、水田一年生雑草の発芽前～発生始期に高い殺草効果を示すが、コナギ・マツバイには効果が劣るのが欠点である。一方、DBNも非ホルモン型移行型除草剤であるが、その殺草作用は主として根部からの吸収によつて行なわれ、かつ薬剤が根部まで到達する程度の土壌中の移行性(2～6cm)をもち、それに残効期間が1カ月前後と長いことなどからCNPに欠けていたマツバイ防除が可能な薬剤である。

本剤は以上2剤の混合であり、これが相加効果を発揮する。他のホルモン剤加用(MCP, MCPB等)のマツバイ用除草剤よりマツバイに対して防除効果が顕著であり、他にノビエ、広葉雑草にも高い殺草力を示す。また、温度条件による効力差はなく、低温時でも安定した効果を示す。

水稻に対する薬害については、母剤であるDBNの単用でも薬害が激しく出ることがあるので使用上かなり規制をうけているが、本剤に含まれる量まで下げれば殆んど薬害が認められな

くなり、かつこのDBNと他剤との混合によつて生ずる薬害は、ホルモン剤>PCP>CNPの順であり、特にCNPとの混合ではある程度高薬量になつても薬害は高くないので、安全に使用できる。

人畜毒性については、DBNのマウス径口LD50が♂2,500^{mg}/Kg, ♀1,250^{mg}/Kgと普通物にランクされ、魚毒性もコイの48時間TLMでCNP290ppm, DBNが17ppmとAランクであり、安全に使用できる。

使用方法：本年度は一応DBN適用地帯を対象とした普通期移植水稻の移植後5～8日の湛水土壤処理用として、10アール当り製品3Kgを均一散布する。

本剤の適用地帯の拡大については現在試験中であり、当分DBN地帯においてのみ使用し、適用土壌は埴土～壤土の日減水深0.5cm以下の腐植含量の多い水田でのみ使用する。

水深は深いほど効果が高いため、少なくとも3～4日間は3cm以上の湛水状態を保ち、かけ流しは避ける。使用量は暖地のように高温で雑草の発生が比較的斉一な場合は少なめに、寒地のように雑草の発生が長くつづく場合にはやや多めに使用する。また、既発生の雑草、特にコナギに対する効果は不充分となるので、約1割程度増量するか、中耕後に使用する。極端な浅植え、軟弱苗、若苗を植え付けた場合は薬害が生じ易いので使用を避ける。